

第2回森林・林業振興計画有識者会議

| | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和4年12月12日（月）14時00分から16時00分 |
| 場 所 | 市役所2階第1委員会室 |
| 委 員 (敬称略) | ○出席9名 寺岡行雄、大竹野千里、岡本孝志、黒松正大、鳥丸等、栢山博、神崎弘治、 下新原博也、鈴木健太 ○欠席1名 下清水久男 |

○主な質疑等

| 発言者 | 内容 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>1 骨子（案）について</p> <p>2 鹿屋市森林・林業振興計画（案）の概要について</p> |
| 委 員 | 山村地域振興で鳥獣被害による営農意欲の減退とある。この意欲は林業の意欲か、農業の意欲か。 |
| 事務局 | 里山林で農業をされている方もいる。山際の畑では鳥獣による被害を受けている。林業の計画であるが、実態から農業の意欲も含んでいる。 |
| 委 員 | 南大隅にはシカがいるので、今後、鹿屋市での被害発生も予測される。 |
| 議 長 | 農業と林業の計画が、それぞれある。農業は、里山地域の整備や忌避作物の選定を営農対策として進める。林業は、里山に鳥獣がおりにこないように森の中にとどめる。鳥獣被害対策には、両方のアプローチが必要である。 |
| 委 員 | イノシシがシイタケを食べてしまっている。シイタケの木を荒らしているので直接の被害がでていいる。再造林で、他の地域ではシカの被害対策として苗木を包んで守る取組がある。今のうちに、そのような対策を考えてもらわないと、この計画が計画にならないと思う。 |
| 委 員 | 再造林の具体的な取組がない。再造林の取組を強くしてほしい。再造林が最も収益がない。やりたいけどできない。コストを低減しても、行政の助成が無いと、現状では再造林は進まない。鳥獣対策は再造林の部分からしていかないと、モグラ叩きのようになってしまう。作業路の計画から、再造林の方法、どのような里山整備をするのか、シカネットなどの対応をとるなど、再造林についての行政のうたい文句がもっと必要だと思う。 |

| 発言者 | 内容 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 議長 | 森林環境譲与税等を使って、鳥獣被害対策を行うことと合わせて、再造林を促していく、両方のインセンティブが必要になってくる。 |
| 事務局 | 森林経営管理制度は採算の取れない山などの管理を市町村が受ける。この制度がはじまる前からある森林経営計画は森林組合が作っているが、民間の事業者と共同で計画を作ることもできる。この経営計画の対象森林は再造林や下刈りについても一定の補助が受けられる。山の集約を早く進めていく必要があると感じている。 |
| 委員 | 経営計画の制度があるが、予算不足になって、事業者が植えようにも植えられないという現状がある。このような状況をふまえて、計画に取り組んでいくべき。 |
| 委員 | 再造林5割アップの割に取組が弱い。振興計画では、重点施策、目玉の施策を織り込むことが多い。この計画で、この期間内で、これを重点施策でやりますというのがない。 |
| 議長 | 直近でやっていくべきことと、今後の展開を踏まえて今からやっていくこと、準備していかないといけないことは重点施策として考えたい。色の付け方に工夫が必要と感じている。委員の皆さんに相談していきたい。 |
| 委員 | 木材生産量の目標値が114,400 m ³ である。地域森林計画で鹿屋市の成長量がでていますが、だいたい8万m ³ である。現状値が88,000 m ³ なので、成長量分は伐られている。目標値は成長量の1.5倍を伐っていくということで、持続可能を掲げてはいるが、産業よりの計画になっている。この計画だと鹿屋市の森林資源は徐々に減っていく。目標値設定の考え方を聞きたい。 |
| 事務局 | 目標値は振興局や森林組合への相談を行い設定した。基準値を令和2年度としたことで、ウッドショック等の影響を受けた数値が基準になっているので、再度検討させていただきたい。 |
| 議長 | 国や県のデータを参考に整理すること。 |
| 事務局 | 検証を行い、必要な場合は生産量と生産額の数値を検討させていただきたい。 |
| 委員 | 生産量は8万m ³ 前後で推移するのが適正量ではないかと思う。県の計画の基準は平成29年度になっている。令和2年度までに伐採が進んだ。県の同じ増加率を使うと難しいと思う。 |

| 発言者 | 内容 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | <p>ここ2・3年の生産量の増加は計り知れないほどである。検討した方がよい。森林組合も間伐より全伐が増えているが、間伐も考えていかないといけない。うたわれていない。今までは50～60年の伐期だったが、今は30年の伐期も考え方が出てきている。30年伐期のところ、50年伐期のところ、60年伐期のところという考え方も盛り込むと、現在の生産量の目標値も不可能な話ではないかもしれない。</p> |
| 委員 | <p>経営計画になっているところと、いないところの把握が必要とのことだったが、はじめのデータ把握が必要ではないか。木がどの程度成長したかのデータはどう取っているのか。</p> |
| 委員 | <p>前回も話をしたが、そもそもどれくらい把握ができてきているのか。どこにどういう木が、どのくらいあるのか。どれくらい正確に把握ができてきているのか。熊本のくま中央森林組合に先進地研修した。航空測量をしており、面積や樹木の本数、材積、1メートル間隔の等高線などのデータが得られるとのことだった。航空測量の技術を活用してほしい。正確なデータを利用してほしい。県などと連携してほしい。市においては防災という観点からも正確なデータがあれば有効だと思う。</p> |
| 議長 | <p>事例を研究していきたい。</p> |
| 委員 | <p>空からの測量の方が、スピード感があると思う。県の研修は、歩いてデータ測量する。手の入っていない山では、切り開きながら、レーザーを測量することになる。航空測量は現在レーザーポイント数も多くなり、精度の高いデータがとれると聞く。最初に境界の明確化に向けた取組を、現場の声を聞いて、市町村で足並みそろえて進めてほしい。でないを使い続けられない。南大隅町と錦江町では、役場内のデータベースから全てそろえようという話の中で、境界の測量も統一しようと話をしている。どの測量技術が良いかとなると頭一つ出ているのが航空測量だと思う。歩くよりも飛ばした方が早い。コスト面はドローンを飛ばすよりセスナを飛ばした方が面積当たりで安い。スピード感があるのでデータ解析、境界の明確化にスピード感がでてくる。</p> |
| 委員 | <p>とはいえ航空測量を鹿屋市全域で行うと数億円かかると思う。どういう優先順位であれば良いのか。経営管理制度に取り組むところから順次するとか、順位付けしておかないと、ものすごい経費がかかる。どういうやり方をすればよいのか検討する必要がある。地域森林計画を作る順に考えてはいるが、県でやるにしても、大隅だけでも10億ほどかかる。費用の見合いになる。また、それだけかけて、一回で終わりではない。蓄積や林層が変わっていくので、費用との見合いがどれだけつくかというのが問題になる。</p> |

| 発言者 | 内容 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | 航空測量は、計測と分析で3,500～4,000円/haぐらい。 |
| 委員 | 特用林産は品目について規制があるか。鹿屋市ではこれとこれというような。農の方ではある。 |
| 事務局 | 計画案の18ページの右上に「鹿屋市の振興作目」を掲載している。計画にあるように新しいものが出てくれば加えたい。また、場合によってはモデル的な取組を検討する。 |
| 委員 | 特用林産物の新しいもの(作目)は入れられるようにしておいてほしい。農業で振興作物でないから補助金の対象に入らないというのを体験した。 |
| 委員 | 特用林産物の振興作物の設定はやりたい人が出てきたときに、鹿屋市から県に指定を依頼すれば入れられる。手続きさえ踏めば、年度内に入れられる。国や県の補助事業を受ける場合は振興作目である必要がある。 |
| 事務局 | 新たな特用林産物の品目があれば市の担当に提案してほしい。 |
| 委員 | アシタバを間伐後に植えた。アシタバが生えることで下刈りが必要なくなった。5年ほど続けた。 |
| 委員 | 労働力関係は、これといった特効薬がない。林業だけではなくて、全産業で労働力対策はどうしてもでてくる。市として、人をどうやって呼び込むかをうまく成り立たせる必要があるので、林業単独で行うのは難しい。今、計画に出されていることが精いっぱいではないかと思う。 |
| 委員 | 製材をしている。去年、若い子が2人入ってくれた。製材会社に若い子が入ってくれて、10人中10人、小さい頃に木工や森林の体験をしている。木工教室や山登りも含む。感動したという思いをずっと持っていて、木材関係の会社に入ってくれた。木育には力を入れていただきたい。実感している。 |
| 事務局 | 鹿屋市の農業まつりにおいて、森林組合や鹿屋農業高校等の協力もあり、林業機械の体験搭乗や農業高校生による競技発表が行われ、かなり盛況で、子どもたちに林業に興味を持ってもらえたと思う。PRイベント、木育を含めた啓発活動を関係機関の協力を頂きながら取り組んでいきたい。 |
| 委員 | 地域おこし協力隊は受け入れていないか。 |

| 発言者 | 内容 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | 農林水産分野ではない。 |
| 委員 | 鹿屋市だけで8万立方伐っている。すごいことである。九州ではみんな林業が盛んだが、全国的には鹿屋市の伐採量は多い。労働力も他の地域と比べれば多いと思う。協力隊が1人入ったことで喜ぶところ（まち）もある。鹿屋市は全国的に質量ともにレベルが高い。これからどうしていくかが課題。木育を含め、お金をかけずにいろいろと工夫することもできる。おもちゃ美術館の誘致はお金がかかる。鹿屋市の出生数は年間800ぐらいであれば、1万円の木のおもちゃをプレゼントすると800万円。ウッドファーストや幼稚園・保育園に寄付する方法もある。直接アピールできる。できれば市内の木工をされている方やフスマ、建具のところに作ってもらおうとよい。 |
| 委員 | 鹿屋市には建具木工組合がある。 |
| 委員 | 組合には毎年高校生が職場体験に来る。一人は将来、建具を自分で作りたい人だった。関心が高かった。幼いころからの木育等の場づくりは大切だと感じた。 |
| 委員 | 枝物の出荷量は右肩上がり。生産者は高齢化している。生産者として出荷できるようになるまでには最低5年要して、その後、少しずつ出荷できるようになる。林業とのマッチングが必要と考える。スギ・ヒノキで収益を得るまでの付加価値になると思う。3年ほど前に鹿屋農業高校の授業で話をした。若人の関心がないと感じた。PRが必要と感じている。重点施策の中で、モデル地区を作る、まず来年やろうということがよいと感じている。スギ・ヒノキの下草としてサカキが適合すると思う。 |
| 議長 | 概要の特用林産物の取組にモデル事業等の実施とある。どのようなイメージか。 |
| 事務局 | 特用林産物の新たな品目についてのモデルで想定した。若い人が新規で就業するのは厳しいところがあるので、年齢を含めてモデル的なパターンを検討し、市がどのような支援ができるか検討したい。高齢でやめる人とのマッチングをしていく仕組み、総合的に考えて構築したい。輝北では市有林で枝物に取り組んだこともあるので、公有林を活用することも一つの手段だと思っている。 |
| 委員 | 現在、輝北の市有林でサカキが栽培されているが管理がされていない。せっかく山があるので、少し整備をして、木育等のいろいろな面から管理したらどうかと感じている。 |

| 発言者 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | <p>枝物栽培は、ライバルがたくさんいた方がよい。増えてくれた方がよい。大きな市場を狙うには、恒常的にロットと質が求められる。群れる必要がある。中国との競争に勝つ必要がある。中国からの輸入品が多い。伸びしろがある。新卒者が取り組むことは無いと思う。50歳程度から研修を受け、退職後に年間100～200万円を受けることができる。60・70歳代を健康に過ごしてもらえれば、市の健康保険の負担も減る。農薬散布のドローンの共有、出荷調整の冷蔵庫の購入、行政で支援できる。人の手間を確保することが課題。徳島のいもどり、上川町では1,000万円を稼ぐ老人もいるが、後継者不足が問題。儲かっているからといって人が来るわけではない。いかに組織的につなげていくのか。50年続かなくてよいので、15年、20年できる人がローテーションで入ってくる仕組みを作らないといけない。スギ・ヒノキは50年かかるので、その間に現金収入がある仕組みを作ることで人が定着する。</p> |
| 委員 | <p>枝物は、市場や会社等から注文が来るが、生産が追い付かない。枝物への親しみが無い、浸透性がない、底辺の知識がない。高校生の保護者に話をさせてほしいと学校に依頼したこともある。</p> |
| 委員 | <p>木材生産量、生産額はリンクするとのことだったが、リンクさせない方法もある。同じ生産量、立米数で金額を上げることは可能であり、業界の我々は付加価値を上げるために努力をしている。業界の努力と行政との間に乖離がある。行政は丸太で言っているかもしれないが、製材にも言える。末端からの生産を上げていくことに危機感を持ってもらいたい。先日開催された森林認証の会では、業界の皆さんの危機感がすごかった。10年20年後、今の鹿児島の上昇が先ずぼみすると言っていた。木材の付加価値をあげて外に出していくことが求められる。計画の目標設定は大量生産するところしか残っていない状態になる考え方である。末端の木材製品の価格を上げて、それを山の中に持っていくところをしてほしい。費用対効果をどこにもってきて、どこで回収するか。山がないと農業も畜産も水産業も成り立たない。</p> |
| 議長 | <p>森と海のつながりをお聞きしたい。</p> |
| 委員 | <p>月に1回、森林組合、農業、漁協の3団体の組合長が意見交換をすると聞いた。</p> |
| 議長 | <p>事業者同士での取組はあるか。</p> |
| 委員 | <p>里山保全の具体的な取組として考えてはどうか。</p> |

| 発言者 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 | 元気もりもり塾（林業）、トビウオ塾（水産業）が残っている。大隅植樹祭では漁業も参加する。今は塾生が職員になり、職員同士の交流になっている。林業をする森林所有者が昔はいたが、核の形態が変わってきている。 |
| 委員 | 木材まつりは盛り上がっていた。大きなまつりにしてほしい。全国的にトラックの森に取り組んでいる。島津の山で植樹したりしている。他業界とのつながりはやるべき。市がやってよい。ボランティア的にすると後から窮屈になる。ビジネスが生まれるべき。林業と農業では、シキミやアシタバを植えていい。山の木がお金になっていく。お金になることを推奨していくべきだと思う。関心が強まる。林業が主導で進められる、進めやすい地域だと思う。 |
| 事務局 | 木育やPRについて、行政だけでは難しい部分がある。子どもたちや林業に興味がある人を対象とした体験等に取り組んでいきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。鹿屋市には、市民が森林に親しむ環境が少ない。県には県民の森がある。鹿屋市にも、霧島ヶ丘公園に市民憩いの森や輝北にも一部あるが活用されていない。市民がどんぐり拾いや木を植える活動など、気軽に山に親しめるような環境づくりも必要なので、ご協力を頂ける部分をお願いしたい。 |
| 委員 | 人は食することに興味がある。林業の部分では薬草とかツワ採りとかある。熊本は薬草に力を入れている。阿蘇の辺りでは宿泊までできる。食べられることを指導する人がいる。ツアーもやっている。製薬会社からは薬草や木の葉を集めてくれと言われる。山に採りに行く人(トリコ)がいなくなった。野草、薬草が入っていない。鹿屋市の新しいビジネスになる。プラスに考えるとやりやすいと思う。勉強する山を作る。ヨモギの効能が伝えられる。ヨモギは畑に植える。循環する仕組みづくりになる。山草や薬草の教室を作ったりすれば関心のあるまちになる。ビジネスも生まれる。山の価値が上がる。 |
| 委員 | 環境教育では鹿児島大学の演習林が垂水にもある。鹿屋市を手伝うことも可能。アドバイスや協力もできる。 |
| 委員 | 園児・小学生の木育、いろいろな世代を対象に、臨機応変に考えていただきたい。市に協力をしたい。 |
| 事務局 | 路網整備や伐採を適正に行っていくために、山の見える化が必要。皆さんと意見交換の場を継続的にもちながら、山の見える化と一緒に取り組んでいきたい。計画策定後に声掛けをしたい。 |